

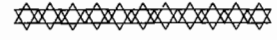
日刊 動労千葉

84.5.11
No. 1637

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

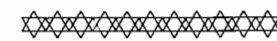
労働強化を申し出て自民党・経営者協会と共闘！ おどろくべき腐敗・墮落＝「動労道本」方針

労働者の立場を完全になげすめた当局・自民 党の手先＝動労本部革マルを粉碎・掃き



「動労道本」は四月十三日、「地交線を存続させるためには労働条件の強化も受け入れらる」とともに、この構想実現にむけ自民党や経営者協会等とも共闘する」との方針を発表しました。

これは労働者を地獄の底にひきずりこむ「働こう運動」の全面開花であり、われわれは今や完全に労働者の敵に転落しきった臨調、国鉄当局の先兵・動労「本部」革マルの追放・一掃を実現しなければなりません。



「休み時間の削減と
運転士の車両清掃」を要求

「動労道本」の「ローカル線を守り発展させるための私たちの考え」と題する方針によると、ローカル線見直しのために①（ワンマン）レールバスの導入、② 定時間隔の列車ダイヤの編成、③ 「いつでもどこでも乗降できる」列車への転換を図るなどの施策を要求するとともに、この構想実現のために列車の増発やワンマンレールバスの運行などの際、休み時間の削減や運転士による車両清掃など労働条件の強化も受け入れる、とされています。そして、自民党、民社党を含む各政党や道経営者協会、道商工連合会などに協力要請を行うというものです。

可能だ。むしろ転換が遅れたことを反省し、組合の側からも「利用者のための国鉄づくり」に取り組みでいきたい」と述べています。

これこそ、今日の国鉄危機とそこからの脱出をかけた「国鉄」攻撃に屈服し、労資一体となった「国鉄再建」に国鉄労働者を動員するための先兵になりきることを宣言した「働こう運動」路線（一九八二年三月、第一一五回動労定中委で強行採決した「国鉄問題に関する動労の考え方」）の全面開花にほかなりません。

奴隷の道を強制する反動路線

「考え方」では次のように主張しています。

……日本労働運動が帝国主義的労働運動にのみつくされようという悲惨な状況下において、とにかくにも生活と職場を守るためには動労単独でも一定の方針をつくり……

（裏へつづく）

北海道新聞

「使用済み」の「道本」の「考え方」は、労働者の立場を完全になげすめた当局・自民党の手先＝動労本部革マルを粉碎・掃き

ワンマンのレールバス、車内清掃 労働強化いとあぬ

赤字線存続へ 独自構想 動労道本

各政党や
経済団体 幅広く協力要請

「道本」の「考え方」は、労働者の立場を完全になげすめた当局・自民党の手先＝動労本部革マルを粉碎・掃き